

武蔵野大学学術機関リポジトリ Musashino University Academic Institutional Repository

# 日本企業で働く元留学生の対話に見られる「そうですね」の使用について

|     |   |
|-----|---|
| 著者  | 村澤 慶昭   |
| 雑誌名 | Global studies  |
| 号   | 2   |
| ページ | 37-48   |
| 発行年 | 2018-03-01  |
| URL | <a href="http://id.nii.ac.jp/1419/00000862/">http://id.nii.ac.jp/1419/00000862/</a> |

# 日本企業で働く元留学生の対話に見られる 「そうですね」の使用について

## About the Use of “Soodesune” Seen in the Dialogue of Former International Students Working in Japanese Companies

村 澤 慶 昭

キーワード：「そうですね」、応答詞、あいづち、フィラー、間繋ぎ

### 1. はじめに

発話者同士がある程度の距離を保った日本語母語話者の対話においては、「そうですね」という発話が頻繁に観察される。この「そうですね」は、日本語教育においては「初級レベルから提示されているにも関わらず、習得し、運用できるようになるのは上級レベルである」（斉木, 2008）と指摘されているとおり、一見習得が容易そうでありながら、その運用には習熟を要する。実際、ジャパントाइムズの『初級日本語 げんき』を例に見てみると、ごく初期の第1課で「そうです Soo desu That's right.」「そうですか Soo desu ka I see.; Is that so?」が、第3課で「そうですね That's right.; Let me see.」が扱われているが、かといって初級段階からこの表現を十分に使いこなせるようになるというわけではない。この点については、寺尾（2008）が中国語母語話者のあいづちについて行った習熟度から見た縦断的分析において、初級の時期には『『ソウデス + φ』という裸の形式で用いられることが多い』ものの終助詞を伴った形は見られなかったという指摘とも一致する。すなわち、「そうですね」が持つ談話上の機能を対話文脈上で使いこなすには、現状では社会に出るなどして実際に相応の配慮が必要な人間関係における発話を多く経験する必要があり、またそれを使った対話進行のストラテジーを身につけることが求められると考えられるわけである。

そこで今回は、まず、ほとんど不自由ない程度の日本語力を既に習得して日本企業等で活躍している元留学生たちが、実際にどのように「そうですね」を使用しているのかを明らかにすることから始める。具体的には、本学大学院ビジネス日本語コースもしくはグローバル・コミュニケーション学部を修了・卒業し、現在日本の企業等で働いている元留学生に行ったインタビューを分析対象として、そこに現れる「そうですね」の運用の実態について把握、分析を行う。その結果から、「そうですね」のどのような機能が効果的に使われているのかを整理することで、より実践的なビジネス日本語教材作成の一助としたい。

## 2. 先行研究

「そうですね」は、構造的には「そう（副詞／指示詞）＋です（助動詞／判定詞）＋ね（終助詞）」であるが、品詞に分解してその意味機能を説明したり、「そうです」についての終助詞の「ね」の機能で説明したりするよりも、「そうですね」をひとまとまりに見てその意味機能を説明した方がより現実に即している。実際、1980年代から1990年代に見られる「あいづち」に関する研究において「そうですね」は「あいづち」として扱われている（例えば藤原（1993）など）が、近年であっても大塚（2014）のように「そうです」や「そうですね」を「あいづち」として分析するものがある。一方、石川（2010）のように、「そうですね」を「相手の問いかけの適切性を認める『そう（ね）』」の派生形として、「あいづちと同様、相手の発話を“肯定”する意識」を持つ「フィラー」と位置づけているものもある。

そのようなこれまでの研究を踏まえた上で、ここでは「そうですね」の機能に着目するため、特に以下の2つの研究を取り上げ、まずは分析の枠組みとしての「そうですね」の分類について考えたい。

### 2.1 齊木美紀（2008）「談話分析から見る『そうですね』」

齊木は、母語話者の談話における「そうですね」を観察し、その実態と意味機能を明確にする一方で日本語学習者の習得状況を観察することにより問題点を探りだした。その際、大曾（1986）以来の先行研究における「そうですね」の捉え方を整理し、応答、あいづち、フィラー、間繋ぎ、緩衝装置など、それぞれの研究における意味機能の捉え方の相違を指摘した。その上で、2種のコーパスとテレビ番組を分析し、『『そうですね』には、応答用法（『はい』『その通りです』と置き換え可能なもの）とフィラー用法（『はい』と置き換えが不可能なもの）があることを確認した。また、「フィラー用法『そうですね』は、インタビューの〈問い－答え〉ペアに多く表出する」ことも指摘した。

後に行う本研究での分析も、まずはこの2つの分類を枠組みのひとつとする。

### 2.2 小出慶一（2011）「応答詞『そうですね』の機能について」

小出は、「そうですね」をひとつの「応答詞」として捉え、その性質、機能と「そうですね」が「そうです」とどのような関係にあるのかに関心を持ち、整理を試みた。

まず、「そうです」の機能については以下のようにまとめている。

18 「そうです」は、先行する発話が、「Xは、Yだ」という構造に解釈されるときに、その認識を肯定するものとして言われるものである。（p.90）

また、その上で「そうですね」を、「そうです」と置き換え可能な「そうですねA類」、置き換えができない「そうですねB類」として、以下のように分析した。

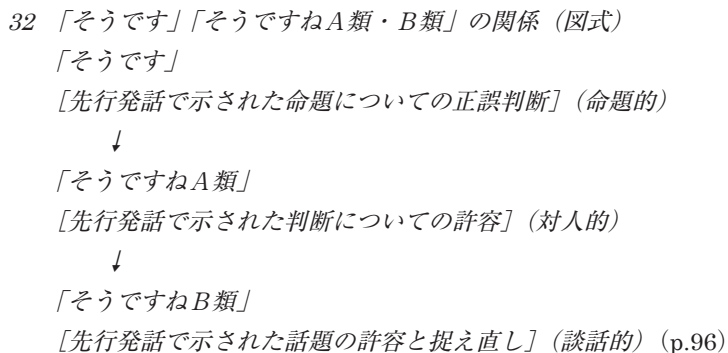
22 「そうですねA類」は、先行発話に対して、話者の解釈あるいは回答のための一定の心

的負担を含む応答に用いられる。そのような過程を含まない場合には現れない。そのため、自身の固有の領域に関する情報については、「そうですね」は使いにくいことになる。ただし、領域性については、対人的な配慮から棚上げされることもある。

また、先行発話に対して自身の心の中で反芻するなどの過程を含むことから、協調的な姿勢を示すことにもなる。さらに、そのことによって、肯定・否定の姿勢があいまいになることもある。（p.92）

33 「そうですねB類」は、先行する話題を受け、一度、その話題を改めて捉えなおした上で、自らの見解なりの表出を開始することを示す標識である。（p.95）

この2種に大別する枠組みは、斉木の2分類と同じ方向性を示すものであるが、一方で小出は、「そうですねB類」を、談話形成に必要な表現として、「フィラーとは別物」と位置づけている。そして、その上で、両者の関係を以下のように図式化している。



このように「そうですね」は、談話上の機能として単なる応答以上の機能を有していることから、前述のように、たとえ日本語教育で初級のごく初期に導入されたとしても、その運用には習熟を要することが頷けるわけである。

### 3. 目的

本研究は、ビジネス日本語教材作成に資するため、現在日本企業で働く元留学生の「そうですね」の運用の実態について把握し、その機能の効果的な使用について整理することを目的とする。

### 4. 分析対象

インタビューの場面では、インタビューアーと受け手の間に一定の距離が維持される。またインタビューアーが受け手の話を整理して聞き返すなどの発話行為が見られるため、「そうですね」が観察されやすい。そこで、本研究では、日本企業に就職した元留学生に対して行われた半構造化

インタビューの応答発話の録音データを分析対象とした。このインタビューは、元留学生達が実際の日本企業内でどの程度日本語を使用しているか、どのような場面で日本語を使用しているか、またどのような点に困難を感じているか等を聞くことで、大学及び大学院のビジネス日本語教育改善のための知見を得ることを目的として、協力者の同意のもとに行われたものである。基本的なインタビュー項目はどの協力者にも同様に質問された。ただし、ここでは「そうですね」の使用状況に焦点を当てるため、インタビューの内容までは分析対象としない。

また、分類の枠組みとしては、前出の斉木、小出の分類を援用し、「そうです」と置き換え可能かどうかをひとつの基準として分類する。また用語についても小出の「そうですねA類／そうですねB類」を用いることとする。

## 4.1 対象データ

### 4.1.1 インタビュー実施期間

2017年7月13日～21日

### 4.1.2 インタビュー実施場所および方法

基本的には本学有明キャンパスの会議室、就職先企業会議室において、インタビュアーと1対1で直接対面の形で行われたが、それが不可能な場合には、facetime、Line電話を用いて行われた。インタビューに要した時間はそれぞれ約43分、38分、48分、52分、62分、52分であった。なお、インタビューの内容は協力者の許可を得て録音された。

### 4.1.3 インタビュアー

ビジネス日本語教育経験のある大学教員（科研協力者）2名（女性）

### 4.1.4 協力者

今回の協力者は、本学大学院ビジネス日本語コース修了生5名（男性1名、女性4名）、本学グローバル・コミュニケーション学部卒業生（男性1名）の計6名であった。それぞれが日本の企業に就職し活躍していることからわかるように、日本語力については流暢であり、本人達も特に不自由を感じてはいない。分析対象データの発話協力者の概要は表1に示す通りである。

なお、6名ともに、来日前の母国での就業経験はない。また、中には、これまでに転職して数社で就業経験がある協力者も含まれている。

表1 インタビュー協力者の基本情報

| 協力者 | 性別 | 年齢 | 出身地<br>(中国) | 日本語<br>学習歴 | 日本<br>滞在歴 | 卒業・<br>修了年 | 現在の就職<br>業界・業種 | 社内の日本語使用   |
|-----|----|----|-------------|------------|-----------|------------|----------------|------------|
| A   | 女性 | 28 | 遼寧省         | 6年3ヶ月      | 7年7ヶ月     | 2014/3     | 教育関連           | 日本語・英語     |
| B   | 女性 | 28 | 江西省         | 6年         | 6年        | 2013/9     | 食 品            | 全て日本語      |
| C   | 女性 | 32 | 貴州省         | 8年6ヶ月      | 10年7ヶ月    | 2009/3     | 教 育            | 日本語・中国語・英語 |
| D   | 男性 | 28 | 福建省         | 7年6ヶ月      | 9年2ヶ月     | 2016/3     | 航 空            | 日本語・英語・中国語 |
| E   | 女性 | 32 | 遼寧省         | 14年        | 9年        | 2012/3     | アパレル           | 日本語・英語     |
| F   | 男性 | 34 | 内蒙古自治区      | 8年         | 10年       | 2014/9     | ドラッグストア        | ほぼ日本語      |

## 5. 分析

### 5.1 「そうですね」の出現回数について

各協力者の発話における「そうですね」等の出現回数は表2に示す通りである。カウントの基準は以下とした。

- ・原則として会話のターン冒頭、もしくはその付近に出現したもの
- ・「そうですよね」（協力者A：1回）は、「そうですね」に含める
- ・「そうです、そうです」や「そうですね、そうですね」のように複数回連続して使用されているものは、連続体をそれぞれ1回としてカウントする
- ・「そうです、そうですね」は「そうですね」に含める
- ・「その通りです」（協力者C）のような表現はここには含めない

表2 「そうですね」他の出現回数（単位：回）

| 協力者 | 「そうですね」 | 「そう」<br>「そうで～」<br>「そうです」 | 「そうなんです」<br>「そうなんです」<br>「そんなんですよね」 | 合計 |
|-----|---------|--------------------------|------------------------------------|----|
| A   | 22      | 14                       | 5                                  | 41 |
| B   | 11      | 13                       | 1                                  | 25 |
| C   | 11      | 1                        | 0                                  | 12 |
| D   | 18      | 18                       | 3                                  | 39 |
| E   | 28      | 8                        | 1                                  | 37 |
| F   | 66      | 1                        | 0                                  | 67 |

この表を見ると、個人差が非常に大きいことがわかる。合計では特に協力者Cは他の協力者に比べて顕著に少ないが、一方協力者Fはその5倍以上の出現数となっている。ただし、このような出現数の顕著な差は、「はい」「ええ」「うん」のような応答を含めていないためであり、不自然な対話が行われていたわけではない。

次に、それぞれの協力者の「そうですね」のA、B2類の発現頻度を示す。

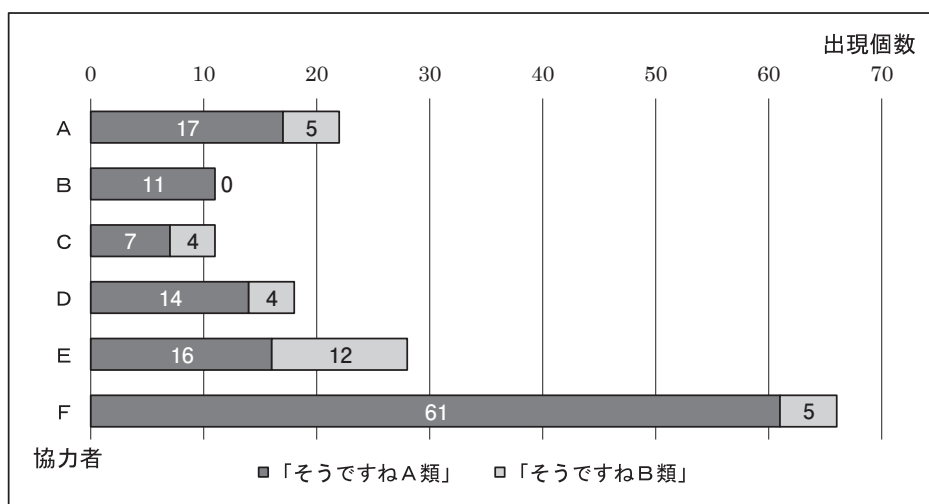


図1 「そうですねA類」「そうですねB類」の出現回数

これもまた、個人差が顕著である。「そうですね」の使用回数が多い協力者Fはそのほとんどが「そうです」に置き換え可能なA類を使用していることがわかるが、一方協力者Eは、B類の使用回数が割合として高いことがわかる。

また、発話をよく観察してみると、A類であっても、「そー、ですね」「そう、ですね」や「そうですねー」など、区切りや強調、伸ばしなどにバリエーションが見られた。

図2に示したのは、以下の応答の「そうですねA類」の波形とピッチ曲線を音声分析のフリーソフトPraatにより分析したものである。

インタビューー：（日本語でのやりとりは）まあすんなりできた。

協力者 A：そうですねー。

これを見ると、「そう」にプロミネンスが置かれ、「です」にかけて急激に下降している様子が観察できる。また、「ね」の部分にピッチの上昇は見られない。図2は「ねー」の部分が伸ばされた発話例であるが、他の発話例を見ても同様の傾向が頻繁に見られた。

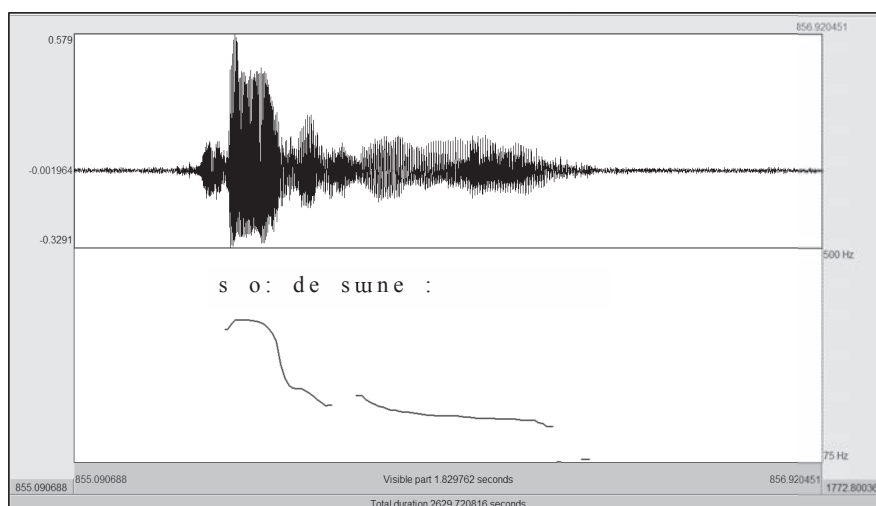


図2 「そうですねA類」の波形・ピッチ曲線の例 [so:desune:]

## 5.2 「そうですねB類」の使用例について

「そうですねB類」が実際にどのように使われているのかを、以下に挙げて見ていきたい。

- ① インタビュアー：社外はないんですよね、（名前）さんの場合は…  
協 力 者 A：えーと、そうですね。でも… 〈間繋ぎ〉
- ② インタビュアー：何か、難しなあ…って場面…  
協 力 者 A：あ～、そうですね。専門用語とか… 〈思いつき〉
- ③ インタビュアー：（日本独特の習慣に）戸惑ったことはありますか。  
協 力 者 A：あ～、そうですね。えーと… 〈間繋ぎ〉（図3）
- ④ インタビュアー：変えたらもうちょっとまた良くなるかもしれない、逆に。  
協 力 者 A：う～ん、そうですね。そー、その時の立場は言えなかった。 〈一時受け〉
- ⑤ インタビュアー：勉強しておいたらもうちょっとよかったと思うようなことは思いつきますか。  
協 力 者 A：う～ん、そうですね。 〈間繋ぎ〉
- ⑥ インタビュアー：期待してた、その母国との繋がりができるんじゃないかっていうのがなかった、  
協 力 者 C：えっとー、ありましたが…、えっとー、そうですね。結構、えっと、オールマイティってところで仕事やってきたので… 〈間繋ぎ〉
- ⑦ インタビュアー：戸惑うよね、ってことってないですか。  
協 力 者 C：う～ん、あとはなんだろうな。ありますが、や、あの～、そうですね。…結構ですね、見ていて… 〈間繋ぎ〉
- ⑧ インタビュアー：私ここでは中国人だからって、そういうのはないですよね。  
協 力 者 C：え～と～、そうですね。もう、たぶんね、非常にわかりやすいっていうのが、ひとつ言えるかなと思います。 〈間繋ぎ〉



- ⑨ インタビュアー：大学院で勉強したことが役立ちました？ 何か。ちょっと前の話、新入社員のと、  
協力者 C：う～ん、そうですね。〈間繋ぎ〉
- ⑩ インタビュアー：--  
協力者 D：やっぱり日本人のほうは…、あとー、そう、ですね。日本人の、お、だいたいみんな… 〈間繋ぎ〉
- ⑪ インタビュアー：--  
協力者 D：やっぱり、そうですね。だから… 〈間繋ぎ〉
- ⑫ インタビュアー：自分からやる気を、やる気になるっていうために何があれば、  
協力者 D：そうですね、そうですね。〈間繋ぎ〉
- ⑬ インタビュアー：(就職は) どういうふうに変だったんですか？  
協力者 E：う～ん、そうですね。やっぱり、は、いろんな企業受けるために… 〈間繋ぎ〉
- ⑭ インタビュアー：そのとき、悩んだり困ったりしたときは、どう、どうしたんですか。  
協力者 E：あ～、そうですね。その時は… 〈間繋ぎ〉
- ⑮ インタビュアー：--  
協力者 E：う～ん、そうですね、今ひとつ思い浮かべるのが… 〈間繋ぎ〉
- ⑯ インタビュアー：どういうふうに関心して、  
協力者 E：そうですね。…今おも、思うと… 〈間繋ぎ〉
- ⑰ インタビュアー：--  
協力者 E：そうですね、難しい業務って、難しい業務っていうよりも… 〈思いつき〉
- ⑱ インタビュアー：具体例は何ですか、10%というのは…  
協力者 E：う～ん、う～ん、そうですね…。具体例… 〈間繋ぎ〉
- ⑲ インタビュアー：それは、長く仕事をしてるからっていうんじゃないくて？  
協力者 E：う～ん、そうですね。それもしかして、もしかしてある… 〈間繋ぎ〉
- ⑳ インタビュアー：--  
協力者 E：う～ん、そうですね… 〈間繋ぎ〉
- ㉑ インタビュアー：--  
協力者 E：う～ん、そうですね…。うまく言えないです。 〈間繋ぎ〉
- ㉒ インタビュアー：日本人の、仕事のやり方で、とま、戸惑ったりしたことはありますか。  
協力者 E：あ～、そうですね。ありーます。 〈間繋ぎ〉
- ㉓ インタビュアー：役に立ってること、どんなことが役に立ってる、  
協力者 E：…そうー、ですね。ひとつー、今すごく思い出したのが… 〈思いつき〉
- ㉔ インタビュアー：大学でこんなことを扱って、教えてくれればよかった…  
協力者 E：そうですねー。えーと、大学さん3年生、4年生… 〈間繋ぎ〉
- ㉕ インタビュアー：どうしてその業界だったんですか？  
協力者 F：業界ですか。業界はー、そうですねー。ま、学生のころも、けっこう接客とかやってきたんで… 〈間繋ぎ〉

- ②⑥ インタビュアー：具体的にこんなことがあったとかっていうような例がありますか？  
 協 力 者 F：う～ん、そうですね。上司、上司に… 〈間繋ぎ〉
- ②⑦ インタビュアー：難しいと思う部分はありますか。  
 協 力 者 F：そうですねー。 〈間繋ぎ〉
- ②⑧ インタビュアー：--
- ②⑨ インタビュアー：あまり、きびし、社会の厳しさを感じるようなインターンシップではなかったってことですね。  
 協 力 者 F：インターンシップは、そうですねインターンシップは、表面的なことな  
 んですね。 〈間繋ぎ〉

上記出現例を見ると、「あ～」「う～ん」「えーと」などのフィラーと共に用いられている。これは、思考中のサイン、もしくは“間繋ぎ”を示すものとして有効に使われていることを示している。また、思考中に言いたいことを思いついた時にも使われる事例がある（②、①⑦、②③）。もちろんこれらの「そうですね」は、それ自体はなくても会話は成立するが、仮にこれらが無い場合に沈黙が続くと、理解しているのか考えているのか、聞き手の側が判断に迷うことが考えられる。その意味からすると、「フィラーとは別物」（小出，2011）とするかどうかの判断は別としても、談話上の機能は認めるべきであろう。

他にも、④の事例のようにインタビュアーの意見に同意していない場合の“一時受け”としても使われている例がある。このように、同じ「そうですねB類」であってもいくつかの機能を有して使われていることがわかる。

図3は、③の発話例のピッチ曲線をPraatによって示したものである。同じ話者の発話である図2と比較してみると、A類同様に「そう」に急激な下降が見られるが、こちらの方が「そう」にプロミネンスが置かれているとも見られるほど急激に下降している。他にも、慎重に考えてい

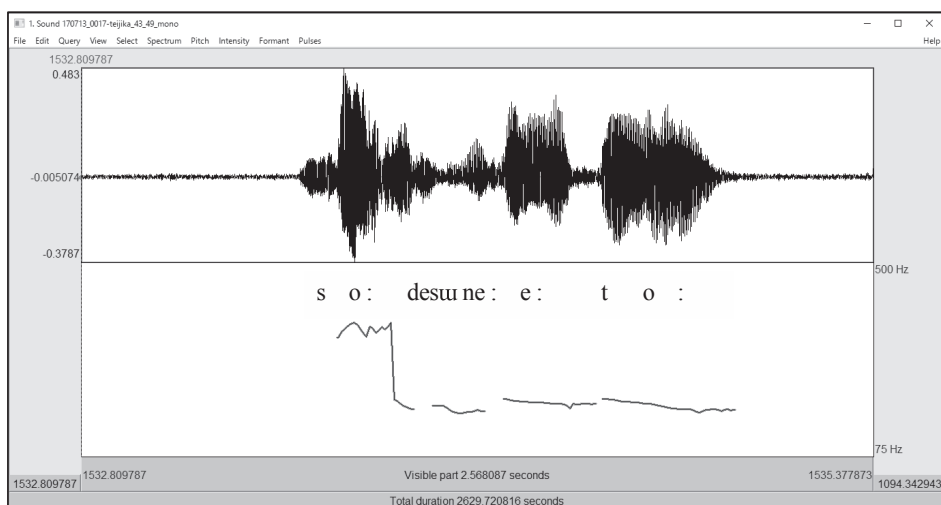


図3 「そうですねB類」の波形・ピッチ曲線の例 [so:desu ne:e:to:] (③)

る場合には、全体的な長さが伸張し、「そう」の下降幅が縮まったり「ね」に多少のピッチ上昇が見られたりする場合もあるが、このようなピッチパターンのバリエーションが、異なる機能で多様に実現されている点は興味深い。

## 6. 考察

元留学生が社会人として企業の中で活躍する中では、高度な日本語の使用のみならず、対人関係に配慮した相応のストラテジーも求められる。たとえば、社外の人物との折衝や顧客との対話などにおいては、まず相手の発話を受け止めることが先決となる。今回分析対象とした協力者Fの発話には、「そうですねA類」の多用が見られた。すなわち、ほとんどの発話冒頭が「そうですね」から始まっていた。また協力者Aに顕著のように、「はい」「うん」「そうです」「そうですねA類」を、さらに発話のバリエーションを加えて上手に使いこなして応答をしている例も見られた。このような発話を見ると、「そうですねA類」は、相手の発話内容を肯定する機能だけではなく、相手の発話内容を理解している、もしくは受け取ったことのサインとして用いられていると考えられる。

また、発話のターンに着目してみると、必ずしもインタビュー어의発話終了を待って応答しているわけではなく、インタビュー어의発話中のイントネーションの上昇に合わせて、いわば“合いの手”のように「そうですね」を挟み込んで対話を進めている様子が見て取れた。これにより、対話のスピードにも一定の緊張感が生まれている。相手の発話の完了を待ってから応答であれば、「～ですか。」－「そうですね。」のような〈質問－応答〉パターンや、「～ですね。」「そうですね。」のような〈確認－応答〉パターンの把握が容易である。しかし、臨機応変にターンを切り替えるその冒頭部分に「そうですね」を挟み込むことは、やはり初級レベルでの習得は難しいと思われる。

それでは、このような応答の仕方、対話のストラテジーをどのように教育の場でトレーニングしたらよいだろうか。「あいづち」を学習項目に組み込む動きはすでに1980年代後半には始まり、指導法を示唆する研究が現れたものの、進学指導中心の教育機関では「聞き手としての言語行動」の指導まではできていなかったとの指摘もある（寺尾，2008）。また、学習者の中には、自身の母語の言語習慣から、相手の発話中にうなずきを挟み込んだり応答したりするのに抵抗を感じる者もいる。加えて、「そうですね」をそのまま相手の発話内容の肯定のみで理解していると、その機能を十分に使うことができなくなる。

協力者Aが、発話中に、ビジネス場面の対人関係においては、『「そうですね」』とかそういう普通のいい方を変えて『さようございます』を使わなければならない場面もあると言及している。このような言い換えに対する学びや気づきも、「そうですね」の多様な運用には重要である。したがって、ビジネス日本語教育においても、就職後のOJTに委ねるのではなく、対話をより効果的に進める機能表現としての「そうですね」に着目した練習等を積極的に取り入れていくことが望まれる。具体的には、今回の結果はビジネス日本語教材において次のように反映させることができよう。例えばリスニング教材では、話者の「そうですね」を聞いてその意図を把握する練習、またシャドーイング教材では、タイミングやイントネーションを習得する練習など、である。

## 7. 今後の課題

「そうですね」の機能については、今回は小出（2011）らの枠組みによったが、母語話者の発話の例も参照してさらに枠組みを細分化、整理する必要がある。即ち、対人関係を踏まえてより対話上の機能を明確にする必要があると思われる。そのため、母語話者の用いる「そうですね」の機能、特にビジネス場面での使用方法についてはデータの詳細な分析が必要である。また、「そうですね」が対人関係の距離を調整する戦略としてどのように用いられているのか、加えて学習者にその誤用が見られるのか、見られるとしたらどのような場面であるのか等を観察、分析していかなければならない。

今回の分析対象としたインタビューの発話には、「そうですね」の他にも、文中で確認や会話促進の際に用いられる上昇調のイントネーション（ハーフクエスション）や、発話内容を考える際に用いられる「なんだろう」など、興味深い発話例が見られた。流暢さを図るキーとして、これらの発話をどのように捉え、また教材に反映するかも今後の課題である。

## 8. おわりに

今回は、日本の企業で働く元留学生のインタビュー発話を分析対象とし、その発話の流暢さを示す応答表現として「そうですね」の運用に着目した。分析の結果、多様な機能を上手に使い分けて対話を進めている様子が観察された。そのような使用法や戦略は、仕事上のやりとりを通じて身につけたものが多いようである。しかし、これらを踏まえて、初級初期からすでに導入される一見単純な応答のように思われる「そうですね」の戦略としての使用方法などを、ビジネス日本語教育内で教材として扱えるように検討を続けていきたいと考えている。

**付記：**本研究は科研基盤研究(C)「タスク理論に基づくビジネス日本語教育用教材の開発研究」(研究代表者：向山陽子 研究課題番号17K02868)の助成を受けて行われた。

### 謝辞

インタビューに快く応じてくださった修了生・卒業生の皆様、またインタビュアーとしてご協力くださった村野節子氏、山辺真理子氏にこの場をお借りして感謝申し上げます。

### 引用文献

- 石川創（2010）「あいづちとの比較によるフィラーの機能分析」『早稲田日本語研究 第19号』 pp.61-72  
[https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=28291&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://waseda.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=28291&item_no=1&page_id=13&block_id=21)
- 坂野永理・池田庸子・大野裕・品川恭子・渡嘉敷恭子（2011）『初級日本語 げんき [第2版]』ジャパントイムズ
- 大塚容子（2014）「初対面3人会話におけるあいづちの談話展開上の機能」岐阜聖徳学園大学紀要・外国語学

部編 53, 47-57, 2014-02-28

<http://ci.nii.ac.jp/els/contents110009760168.pdf?id=ART0010253324>

小出慶一 (2011) 「応答詞『そうですね』の機能について」 埼玉大学紀要 (教育学部) 第47巻第1号 p.85-97

<http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xoonips/detail.php?id=KY-AA12017560-4701-05>

斉木美紀 (2008) 「談話分析から見る『そうですね』」 横浜国大言語研究 26, pp.60-45

[https://ynu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=7447&item\\_no=1&page\\_id=59&block\\_id=74](https://ynu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=7447&item_no=1&page_id=59&block_id=74)

寺尾綾 (2008) 「ある中国語を母語とする日本語学習者の言語的あいづち：日本語の習熟度からみた縦断的分析」 阪大日本語研究. 20 P.91-P.117 <http://hdl.handle.net/11094/4952>

藤原真理 (1993) 「対話における相づち表現の考察：『そうですか』『そうですね』等を中心に」 雑誌名東北大学文学部日本語学科論集巻3 p.71-82 <http://hdl.handle.net/10097/00119272>